

総 説

社会福祉概念の構造 —米国の社会福祉に関する概念整理—

A study of the structure of the social welfare concept

— The classification about the social welfare concept of the United States —

丸岡 利則

要約：本稿は、米国の「社会福祉」(Social Welfare)の概念についての構造などを説明(記述分析)するものである。それは、「日本の社会福祉」に対応するのが「米国の社会福祉のパーソナル・ソーシャル・サービス」であることについて、「米国の社会福祉」から確認するものである。

その説明への手順は、米国で使用されている「社会福祉」概念をそれぞれのカテゴリー別に分解し、概念整理による説明によって示すものである。それは、社会福祉サービスであり、ヒューマン・サービスであり、パーソナル・ソーシャル・サービスとして、社会福祉と呼称されているそのものの内容を明らかにすることである。また、これまで社会福祉と呼称されてきたものの周辺概念の整理も含まれる。

Key Word：社会福祉概念、構造、社会福祉サービス、パーソナル・ソーシャル・サービス、ヒューマン・サービス

はじめに

「社会福祉」(Social Welfare)という概念は、米国においても十分に明確には定義されなかった。その理由は、この概念が社会福祉を「包括的な」(encompassing)観点として捉えられているからであり、またそれと同時に、多様な社会福祉活動と重複するような二重性があるからである(P. R. Poople, L. Leighninger, 2005:33, P. Nelson Reid, 1995:2206)。日本でもこの用語は、社会福祉学の領域だけではなく、当然社会保障のなかに含まれており、さらに社会政策のなかで制度や法律の用語としても使用されている。

本稿は、米国の「社会福祉」(Social Welfare)の概念についての構造などを記述分析するものである。特に本論のエッセンスは、Social workers as deliverers of social services (ソーシャル・サービスを配達するソーシャル・ワーカー)における「ソーシャル・サービス」と「ソーシャル・ワーク」との関連性⁽¹⁾を明確にすることにあるが(B. R. Compton, 1980:103, 以下Comptonと標記する。)、このことは、社会福祉(Social Welfare)と社会福祉援助技術(Social Work)とが果た

して「不可分」⁽²⁾の関係なのかという問いでもある(高田1986:8)。そしてどのようにその2つの概念が「互換」されてきたのかという検討も含まれるだろう。しかし、これに対して答えるためには、「説明」(記述分析)の方法だけで論じるのは十分ではない。そのため、本稿では、このエッセンス(基本)に直接言及しないが、これを課題としながら、「日本の社会福祉」に対応するのが「米国の社会福祉のパーソナル・ソーシャル・サービス」であるということに至るまでの「社会福祉概念」の整理に限定するものである。

したがってその手順は、米国で使用されている「社会福祉」概念について、制度の構造(the structure of social welfare)をそれぞれのカテゴリー別に分解し、整理するものである(Compton, 1980:103)。

1. 社会福祉概念の構成要素

「社会福祉」(Social Welfare)という概念とそれと関連しているものの概念整理⁽³⁾は、説明(記述分析)によって示される。それは、「社会福祉サービス(Social Service)」であり、ヒューマン・サービスであり、「社会福祉」(Social Welfare)と呼称されているそのものの内容を明らかにすることである。またこれまで「社会福祉」(Social Welfare)と呼称されてきたものの周辺の用語

2010年6月2日受付／2010年7月14日受理
Toshinori MARUOKA
関西福祉大学 社会福祉学部

には、パーソナル・ソーシャル・サービスや社会福祉サービスなども含まれる。

(1) 「プログラム」(programs) の分類

一般に「社会福祉」と呼ばれているものには、何が含まれているのか、米国の社会福祉を構成する「要素」として何が挙げられるのか、この節では、これを分類(「構成要素」という記述的な説明によって示すものである。

社会福祉の「プログラム」(programs) は、Comptonによれば、5つあり、それは「クライアント群 (the clientele), サービスの種類 (the nature of service), 資源を提供する目的 (the purpose of offering the resource), 援助と承認の財源 (the source of support and sanction), 公的機関のケース別 (in the case of public agencies) 」に分類できるという (Compton1980: 59)。

まず、「クライアント」別に分類すると、それは「高齢者、要保護児童、放任と虐待児童、非行者、犯罪者、失業者、情緒障害者、身体障害者、知的障害者、退役軍人、鉄道労働者、無能力者 (the disabled), コミュニティ・スペシャル・インタレスト・グループ」というリストである (Compton1980: 59-60)。

次に、「財源別」のプログラムの内容で見ると、「公的財源」(Public) と「民間財源」(Private or voluntary) とに区別できる (Compton1980: 60)。つまり高齢者、遺族、障害者保険 (社会保障)、メディケア (医療保険)、メディケイド (医療扶助) などの「税金の財源」(tax funds) によって運営されるものと、養子縁組、児童福祉サービス、里親、家族サービス、デイケアなどの「民間の財源 (voluntary contributions) 」との2つの区分である。しかし、両方の援助を受けるような財源の混合もあり、同種のプログラムが別の組織の中にみられたり、違う財源の組み合わせによっても援助されることがある。そのため、「社会福祉の組織と機能とプログラムの発達の分析には非常に重要であるが、プログラムとサービスの概要には役立たない」(Compton1980: 61)。

また、「行政組織・機関レベル」(public agencies and organizations) によるプログラムの分類は、3つある。それらは公的機関の実施するプログラムの内容の一覧から見て、1つ<連邦政府のプログラム (Federally administered programs) >では、高齢者、遺族、障害者保険、医療保険、補足保障所得、鉄道労働者、退役軍人へのサービス、連邦保護警察、連邦刑務所の管理があり、2つ<連邦-州プログラム (Federal-state

programs) >では、要保護児童への援助、失業補償、職業リハビリテーション、公的精神保健サービス、肢体不自由児サービス、児童福祉サービス、母子保健サービスがあり、3つ<政府、国家-州、地方プログラム (State, state-local, and local programs) >では、ワーカールの補償、障害者保険、一般扶助、地方宣告猶予、仮釈放、州と地方刑務所と教護院、少年非行の施設というリストが挙げられる (Compton1980: 62)。

また、構成される「要素」(component) について、P. R. Poole は、「社会福祉はシステムとして2つの要素に分けられる」として、「1つは、社会 (サービス) 供給 (social provision) であり、それは生活上の最低限度の地点にある人々の物質的レベルを向上させる目的で、所得と所得相当物 (フードスタンプ、公営住宅、メディケイドなど) の供給である。2つは、ソーシャル・サービスであり、それはパーソナル・ソーシャル・サービスと呼ばれている (特にヨーロッパではソーシャル・サービスと呼ばれているが)」を挙げている (Philip R. Poole 2008: 98)。

(2) 社会福祉サービスの類型

次にプログラムの分類として多くの先行研究が指摘している「サービス」概念を「社会福祉概念」の要素として見てみよう (高田 1986: 246)。

「サービスの種類」による分類は、Comptonによれば、1973年に A. J. Kahn によって提示され、1976年に S. B. Kamerman によって発展し、「近年、社会福祉のプログラムを分類するために、しばしば用いられる有用な体系は、サービスの種類によるカテゴリーである。他の種類の分類方法と同様に、この方法には問題があるが、この方法が理解をする上で最も有益であると確信する」という分類である (Compton1980: 62)。

S. B. Kamerman と A. J. Kahn は、米国の「社会福祉」(Social Welfare) には伝統的に5つの範囲があったとし、6番目に挙げた「パーソナル・ソーシャル・サービス」(personal social services) は、かつて「その他のソーシャル・サービス」(social services) と名づけられたものである (Sheila B. Kamerman & Alfred J. Kahn 1976: 3)⁽⁴⁾。

1. 所得維持 (Income maintenance)
2. 保健医療 (Health care)
3. 住居 (Housing)
4. 教育 (Education)

5. 雇用 (Manpower)
6. パーソナル・ソーシャル・サービス (personal social services)

これに, R. Morris は, さらに次の2つを追加する (R. Morris1979 : 117).

7. 矯正 (Correction)
8. リハビリテーション (Rehabilitation)

そして, さらに Compton は, 上記の8つに対して, 9番目に次のサービスを1つ追加する (Compton1980 : 62).

9. 社会変革活動 (Social-change activities)

Compton は, 以上の9つを, 「社会福祉」(Social Welfare) のプログラムによる分類のカテゴリーであるとする。

この9つのカテゴリーは, 実際には, 社会福祉のシステムと関連している (高田 1986 : 238). そして, そのシステムは, 具体的なサービスを引き受けるデリバリー・システムと, それを引き受ける末端の機関との境界線が常に一致しているのではない。機関は, 2つあるいは, それ以上の入り組んだプログラムを提供している (新藤・武智 1989 : 47-69).

さて, この9つのカテゴリーのうち, 最初の6つについては, 有力なものとして一般的に受け入れられており, 通常, これが社会福祉のサービスとして捉えられている。Compton が, 「矯正」(correctional services) について, 「社会福祉の制度の一分野である社会的逸脱の管理を目標とした独立したシステム」であり, 「政府の認可, 支持の福祉システム」でありソーシャル・ワーカーが, 中心的な役割を果たすという点で敢えて加えたとしている (Compton1980 : 64).

また, 「社会変革活動」(Social development and change activities) は, Compton の独自の視点である。それは社会福祉が「介在制度」(interstitial institution) であり (Compton1980 : 34, 高田 1986 : 9), 社会と個人の両方の発展に関わる制度として捉え, 社会的関係に焦点を当て, 個人や集団の問題解決のために社会関係の調整を図ると言う発想で, 具体的には, プログラムと連結して「個人の問題への効果的な援助が社会活動を促進する」ことにあるということで追加したという (Compton1980 : 65-66).

さて, 米国で, 通常「ヒューマン・サービス」(Human Service) として呼称されているものは, 英国では, 「ソーシャル・サービス」(Social Service) と言われている

が, このヒューマン・サービスは, 「社会保障, 社会的公正, 社会的機会の理想的な目標」を扱い, 「個々人の福祉に重要であるばかりでなく, 安全な市民と安定した社会の維持にも重要である」とする普遍的なサービスであり, 基本的な6つの分野 (パーソナル・ソーシャル・サービスを含めずに伝統的な5つの分野のみを, その領域とする分類をすることもある) を包括するものである (Compton1980 : 63-64). 例えば, Compton は, 上記の9つのうち, (1) 所得維持, (2) 保健医療, (3) 住居, (4) 教育, (5) 雇用, (6) 職業的リハビリテーションを「ヒューマン・サービス (Human Service)」として分類している (Compton1980 : 62).

以上, 大分類の「社会福祉」(Social Welfare) についての構成要素を概観した。

2. パーソナル・ソーシャル・サービスの概要

本節では, S.B.Kammerman と A. J.Kahn が伝統的な5つの「ソーシャル・サービス (Social Service)」に加えて, 「その他のソーシャル・サービス」として挙げている「パーソナル・ソーシャル・サービス」(Personal Social Service) の概要を概観する。

パーソナル・ソーシャル・サービスは, イギリスから来たものであるが, 他のデリバリーシステムと同様に発達してきた。S.B.Kammerman と A. J.Kahn は, 「国家は, 説明できる計画を保障することを要求され, 政府自身が定義づけ, そしてサービスを選択し, サービスのデリバリーの構造を決定するといつてよい。タイトルXXの主導権は, 米国のパーソナル・ソーシャル・サービスの再編成である」という (Sheila B.Kammerman & Alfred J.Kahn1976 : 10). つまり, 従来のサービスが, この再編によって, ヒューマン・サービスを補完し, 対人的なソーシャル・サービスを体系化しようとするものであった。

1960年代の米国は, ソーシャル・サービスに大きな転換をもたらした。1964年の経済機会法, 1965年アメリカ老人法, 1967年の社会保障法の改正などによって, 次々と多様なサービスを提供する施策への連邦の援助が促進され, 1975年の社会保障法の改正 (タイトルXX) によって, パーソナル・ソーシャル・サービスは, 名実ともに「再編成」された。もともとが, タイトルXX (老齢扶助), タイトルXX-A (要保護児童をもつ家族への扶助, 恒久的な障害者への扶助) を合体させたもので, 特に目新しいものではなく, それまでの社会保障法のも

とで提供されてきたサービスを再編、統合したものである (Neil Gilbert & Harry Specht 1981 : 3-4).

まず, Neil Gilbert & Harry Specht が, プログラム・カテゴリーにおける公的ソーシャル・サービスの支出先とタイトルXXのサービス・カテゴリーの関連について説明をしたものでは, 「プログラム・カテゴリーによる公的ソーシャル・サービスの支出」として1966, 1970, 1977年に調査されたもので, 「a) 公的援助(タイトル)ソーシャル・サービス, b) フードスタンプ, c) 他の公的援助サービス(救済事業, 貧困者の食料, 職業訓練), d) 職業訓練, e) 施設ケア, f) 児童の給食サービス, g) 児童福祉, h) OEOと行動計画, i) 他のところでは分類できないサービス⁽⁵⁾」の項目がある (N. Gilbert & H. Specht 1981 : 3 Table 1, i).

そして, 保健教育福祉省 (DHEW) のソーシャル・リハビリテーション・サービスは, 以下の41の「タイトルXX」のサービス・カテゴリーに, 共通の特徴をもったサービスを寄せ集めることによって, この大きな活動に整理をもたらした。

そして, その41の「タイトルXX」のサービスのリストは, 「養子縁組サービス, ケースマネジメントサービス, 雑用サービス, カウンセリングサービス, デイケア, 診断評価サービス, 教育訓練サービス, 緊急サービス, 雇用関連サービス, 家族計画, 里親(成人, 児童, 種々), 保健関連サービス, 配食サービス, ホームメーカー・サービス, ホーム・マネジメント, 住宅改善, 情報とリフェラル, 法的援助サービス, 保護サービス, レクリエーション・サービス, 施設ケアと治療, 未婚の両親サービス, 社会化サービス, 特別サービス(アルコールと麻薬, 視力障害者, 児童と青少年, 少年犯罪), 中間サービス, 輸送, 職業リハビリテーション, 就労インセンティブ・プログラム医療試験, その他」である (Neil Gilbert & Harry Specht 1981 : 4).

これらは, a) から h) までのカテゴリーと比較すると, 重なり合う部分と違う部分とが明らかになる。「この一覧表で列挙した41のサービスの要約した領域が, a) のプログラム・カテゴリーのサブカテゴリーを構成しているという事実が, 米国のソーシャル・サービスと我々が呼んでいるものの活動の多様な領域への理解を読者に与える」(Neil Gilbert & Harry Specht 1981 : 4).

また R.M.Kramer は, パーソナル・ソーシャル・サービスには, 「デイケア, カウンセリング, 児童保護, 里親制度, 施設処遇, ホームメーカー・サービス, リハビ

リテーション, 保護授産施設」が含まれるとしている (R.M.Kramer1987:240).

以上の「サービス」というカテゴリーから, 「パーソナル・ソーシャル・サービス」の概要が的確に見えてくるという訳ではない。大まかな「ソーシャル・サービス」の活動が見えてくる程度である。「全体として, 米国のソーシャル・サービスの状況は, むしろ乱雑である。それは重なり合った施策, 州, 国家, 地方の財源提供者と規則のごたまでになったネットワークをすべてに具体化していること, 専門家の実行の様々な方法を通して実施されて, 一緒になった数多い断片的な活動を含んでいる」からである (Neil Gilbert & Harry Specht 1981 : 5).

3. パーソナル・ソーシャル・サービスの概念整理

(1) パーソナル・ソーシャル・サービスの機能

この節では, パーソナル・ソーシャル・サービスの体系の「機能」(function)を概観する。

A. J.Kahn は, パーソナル・ソーシャル・サービスの「機能」(function)を「社会化と発達サービス (development services) 」, 「治療, リハビリテーションの援助(社会的保護と代償ケアを含む) 」, 「アクセス, 情報, 新しいサービスの発達」の3つに分類している (A. J.Kahn 1973 : 16).

一方, R.Morris は, 機能を次のように定義している (Robert Morris 1979 : 117-19).

①あるグループによって求められた具体的なサービス以外のものを供給し, 管理することで, 他のデリバリー・システムによって供給されないもので, それは, 例えば, 働く母親の子どものためのデイケア, ホームメーカー, 養子縁組。

②心理社会的機能に関する援助が必要で, かつ援助が欠如した個人と家族に心理療法的なサービスを供給すること。

③より個人的ニーズに対応できるように, 他のデリバリーサービスの厳密性を代えたり, 調整したりする代弁的機能を供給すること。

④個人による活動を調整するために, あるいは機関の機能の重複部分を減らすように, 情報とリフェラル活動を管理すること。

また, Compton は, パーソナル・ソーシャル・サービスを以下に分類する (Compton1980 : 64-65).

< 1 > 保護サービス (Protection Services)

a 法律上の責任のない親がいる子どものために,

家族を供給するサービス

- b 親から離れて一時的な住居を必要とする子どものための里親制度
- c 保護が終わるまで、放任と虐待状況へのサービスと危険な状態の子どものために適切な親になることを保障すること
- d 家庭内暴力の他の犠牲者へのサービス
- e 弱い立場にある (vulnerable) 高齢者のためのサービス
- f 生活状態を変える必要がある人へ供給されるサービス

< 2 > ソーシャル・ケア・サービス (Social Care Services)

- a アクセスの情報サービス
- b 個人々人への諸サービスの調整
- c 個人々人への弁護的サービス
- d セルフケアを満足させるために個人々人の能力を引き出す、他のサービスまたは支持的カウンセリング
- e デイケア、ホームメーカーサービスといった社会的有益の整備

< 3 > 発達と社会化サービス

- a 正常な発達に貢献するサービス
- b 個人々人の社会化に貢献するサービス

< 4 > リハビリテーションまたは心理療法的なサービス

- a 個人々人と家族の心理療法的な機能の変化を引き起こすことを目的としたサービス
- b 心理療法的機能の領域で、問題を解決することを目的としたサービス

また、L.R.Baker は、次のものが含まれるとしている。「①人々健康と福祉を<促進すること>、②人々がより自己充足になるように<支援すること>、③依存を<防止すること>、④家族関係を<強化すること>、⑤社会的機能がうまくいくように個人々人、家族、集団、地域を<回復させること>」(L.R.Baker, 2003 : 407)。

(2) パーソナル・ソーシャル・サービスの「課題」と「プログラム」

次に、A.J.Khan と S.B.Kamerman は、パーソナル・ソーシャル・サービスの「課題」(tasks) を概観する。それは、次のうちの一つあるいは一つ以上に向けられるという (Alfred J.Khan & Sheila B.Kamerman, 1980 : 5)。

- ① 社会化と発達に貢献すること (普通の平均的な

人々へ)

- ② サービスと権利の情報を広め、アクセスを容易にすること (6つのソーシャル・サービスの分野すべて)
- ③ 基本的な社会的ケアと援助を保障すること (高齢者や障害者などへ)
- ④ 代替的な社会的なケアを手配すること (親の役割を果たせない児童のための家族へ)
- ⑤ 援助、カウンセリング、ガイダンスを提供すること (問題をもっている個人々人と家族へ)
- ⑥ 相互援助、セルフヘルプ、予防活動を支援すること (地域生活の問題を克服する政策やプログラム、サービス計画の変革を代弁すること)
- ⑦ プログラムとサービスを統合すること (個人々人や家族へ)
- ⑧ 統制と管理 (逸脱した個人々人へ)

次に、「プログラム」について、Compton は、部分的なリストとして、「家族福祉、児童福祉サービス (里親の養子縁組を含む)、宣告猶予と仮釈放ワーク、グループ治療、問題児童の学校ソーシャルワーク、医療ソーシャルワーク、児童と成人のための精神保健プログラム、弱い立場にある特に高齢者と子どものための保護サービス、デイケア、ホームメーカーサービス、家族計画、老人センター、子どもの発達プログラム、親グループ、デイケア活動、デイケア、施設援護」を挙げている (Compton 1980 : 64-65)。

そして、S.B.Kamerman と A.J.Kahn (1976 年) は、パーソナル・ソーシャル・サービスとして、現在、確認されるものは、「家族と児童福祉、青年と高齢者のためのソーシャル・サービス、身体障害者、虚弱者、知的障害者ソーシャルケア、情報とリフェラル・サービス、コミュニティセンター」が含まれるとしている (Sheila B.Kamerman & Alfred J.Kahn 1976 : 3)。

そして、「サービスの分野」は、「①児童福祉プログラム、②児童援護と関連プログラム、③高齢者のソーシャル・サービス、④家族ソーシャル・サービス、⑤ホームメーカー、ホームヘルプ、ホームヘルスエイド、⑥退役軍人プログラム、⑦更生保護、⑧コミュニティセンター、セツルメント、集団プログラム、⑨アクセスサービス、⑩亡命者、先住者インディアン、移住者の労働者についての特別プログラム、⑪地域精神保健、知的障害者プログラム、コミュニティの発達、⑫ボランティア部門」であると説明する (Sheila B.Kamerman & Alfred

J.Kahn1976:7-19).

また、同じく、A.J.Khan & S.B.Kamerman は、「部分的なリスト」として「①児童福祉（養子，里親を含む），②家族福祉とカウンセリング，③高齢者のための地域サービス，④高齢者のための保護サービス，⑤ホームメーカーとホームヘルプ，⑥コミュニティセンター，⑦デイケア，⑧児童，障害者，高齢者，家族のための職業キャンプ，⑨情報とリフェラルサービス，⑩集団給食と配食サービス，⑪障害者と社会的不利を持つ人々のグループの間のセルフヘルプと相互援助活動，⑫青年のためのカウセリング，⑬青年のための保護的住居の手配，⑭児童と成人のいくつかのカテゴリーのための専門的な制度」の項目を挙げている（Alfred J.Khan & Sheila B.Kamerman, 1980:5）。

（3）パーソナル・ソーシャル・サービスの「構造」

N.Gilbert と H.Specht は、パーソナル・ソーシャル・サービスの基本的な構造を2つに分ける。それは、<1>ソーシャル・サービス・プログラムの施策と<2>ソーシャル・サービスをデリバリーするための専門的実行、である（Neil Gilbert & Harry Specht 1981:5）。さらに<1>を4つに分ける。すなわち、①限定された施策（delimited）、②混交した施策（amalgamated）、③構成要素の施策（component）、④所得援助プログラムと財政（income support programs and finance）である。

さらに、それぞれのプログラムを分類する。

- ①限定された施策（アクセス手段-情報とリフェラル・サービス，家庭での維持，児童の介護，リクリエーション体験）
- ②混交した施策（家族，高齢者，児童福祉，地域精神保健，障害者，アルコールと薬物乱用，少数民族グループ）
- ③構成要素の施策（学校，医療裁判システム，住居，医療ケア・システム，ビジネスと企業）
- ④所得援助プログラムと財政（所得支援，財政）

次に、<2>ソーシャル・サービスをデリバリーするための専門的実行は、次の4つに分類している。①実行の直接の方法（行動変容，ジェネラリスト・アプローチ，ソーシャル・グループサービス，コミュニティ・オーガニゼーション）、②実行の新しく発達する領域、③間接サービスの方法（社会福祉と行政管理，社会計画，調査とプログラム評価，性的カウンセリング，直接実行の現出方法，調査方法）、④専門性の発達（知識と実行の分析，専門的な多様な外観，組織的収集としての専門の異なる

外観）である。

以上、モリス、A. J. Khan & S. B. Kamerman, Compton のパーソナル・ソーシャル・サービスの機能、課題、プログラムをみてきたが、特に N.Gilbert と H.Specht は、これを「ホストプログラムのサービスを効果的に使用するならば、ある種の援助と変化を必要とする個人へ援助を引き受けられるサービス」としている（Neil Gilbert & Harry Specht 1981:65）。

4. ソーシャル・ワークとの関連

以上、本稿のねらいである「日本の社会福祉」に対応するものとして、「米国の社会福祉のパーソナル・ソーシャル・サービス」を確認した。パーソナル・ソーシャル・サービスは、基本的に個人々の個別のニーズを充足するためにできているため、広範で増大していく要素をもっている。Social Welfare(社会福祉)において、ヒューマン・サービスが普遍的なものであるのに対して、パーソナル・ソーシャル・サービスは、個人々人の変化していく要求に応える柔軟性が不可欠であり、常に新しいサービスを提供する必要があることを示している。

さて、米国の社会福祉についての概念の整理のエッセンスは、Social workers as deliverers of social services（ソーシャル・サービスを配達するソーシャル・ワーカー）における「ソーシャル・サービス」と「ソーシャル・ワーク」との関連性を明確にすることにあつた。しかし、本稿では「ソーシャル・ワーク」の周辺にある制度、組織、専門家のソーシャル・ワークの機能を検討するところにまで至らなかった（Zastrow,C2000:7）。そのため、ここでは、概念整理から確認されたソーシャルワークとの関連についての課題を以下に示すものである。

1つは、Compton や高田が指摘するように、その互換性と不可分の「構造」と「機能」の意味を明確にすることが、すなわちその関連性が課題に結び付く可能性があることである。特に米国では、「機能」(function) という概念の導入によってソーシャル・サービスという活動を見ようとしていることが特徴である（船曳 1993:35）。それは、例えば、「パーソナル・ソーシャル・サービス」は、「特有の必要性と制度上の状況に向けられたもので、区別でき、確認できる価値のある社会的機能である」(Sheila B.Kamerman & Alfred J.Kahn1976:3) と記述している。つまり、この「機能」という概念でソーシャル・サービスという活動、事業を理解しようとしている観点などが課題になる可能性があるという点である。

2つは、米国の社会福祉の構成要素（カテゴリー、制度、機能など）の評価をこえて、われわれが求める「関連性」は、「米国のソーシャル・サービスを計画し、運営し、また直接にサービスを営んでいる職員組織の主要部分を構成しているのがソーシャルワーク・プロフェッションである。ソーシャル・ワークが『ソーシャル・サービス』といわれるものの共通点であるとすれば、ソーシャル・ワークの固有の機能を明確にするのがソーシャル・サービスの固有の機能を明らかにすることにつながる」（船曳 1993：35 - 6）と考えられる点である。

3つは、これまで本稿が論述した概念整理の学問的な方法論として、概念の説明（記述的な分析）という方法を掲げた。すなわち、「構造」、「構成要素」としての「要素」、「プログラム」、「種類」、「カテゴリー」、「概要」、「機能」、「課題」などの分類（classification）は、米国の社会福祉学者の記述的な説明方法によるものであった。これは、特に社会福祉の領域で「概念定義」にまで至る「説明」（厳密に言うところ「記述」）を「分類」という方法で示す点に特徴があるだろう。

おわりに

最後に関連性のまとめとして日米比較に関する整理の課題を改めて展開すると、日本でも米国と同様に、Compton の言う5つの分野のヒューマン・サービス（所得保障、医療、教育、雇用、住宅）については、国家政策的なナショナル・ミニマムが確立している。さらに米国がもう一つの分野、すなわちパーソナル・ソーシャル・サービスを実施したのは、これらのヒューマン・サービスを補完するかたちで、社会保障法の改正（タイトル XX）が施行されたときに、所得保障と社会福祉サービスを分離し、そして、社会福祉サービスについては州政府への権限委譲を図り、その主体的な運営を奨励し補助金を出して、多様な施策を充実させていったという経過があることが日本との相違点である（Compton 1980：103）。これに対応する日本の制度は、社会福祉六法が、それに該当するであろう。しかし、これは、厳密に言えば米国のパーソナル・ソーシャル・サービスとは一致しない⁽⁶⁾。

それは、米国の公的扶助がサービスとソーシャル・ワークとを切り離れたときが転換点である（Compton 1980：104）。ここに「財・サービス」を提供する日本と、「個人と社会制度」への調整・介入を実施する米国との相違点が認められるだろう。

注)

- 1) Compton は、「deliverers（配達）」について、「社会福祉のシステムは、つねに部分的なシステムを占めるサービスにおいて中心となる人々を構成する集団によって支援される」と教育デリバリー・システムの中心は教師、医療デリバリー・システムは医者と看護師と例をあげている（Compton 1980：103）。
- 2) 例えば高田は、社会福祉とソーシャル・ワークとの関連を「CO は、ソーシャルワークの一次的な方法のうち、前二者（ケースワーク、グループワーク）に比して、いわゆるマクロな側面、地域社会や社会制度などに関心をもってきた」とソーシャル・ワークが「治療的、技術的なもののほかに、包括的な観点から捉えるようになってきた」と示している（高田 1986：138）。
- 3) これは例えば、Macarov, D が示した Conception of Social Welfare のなかで、福祉国家や社会保障を含めた nation's of system of programs, benefits, and services や social policy を含めたような概念整理ではない（Macarov, D 1995:6-15）。また、Zastrow が示した学際的・横断的な the similarities and differences を追求するものでもない（Zastrow, C 2000：6）。
- 4) 例えば古川孝順は、Alfred J. Khan & Sheila B. Kamerman の比較研究の枠組みに関して、この研究が 1980 年発刊の国際比較であり、社会主義時代のポーランドやユーゴスラビアなどを取り上げ、資本主義国と直接に比較したことを批判しながらも、80 年代以降もこの「対象国設定や比較方法」が基本的にその妥当性を維持していると言及している（古川 2004：136-137）。
- 5) N. Gilbert & H. Specht 1981：p.3 Table 1, i) の表で、「その他のサービス」とは、（インディアン福祉と指導、老人と少年の非行活動、人材と福祉発達活動、州と地方のデイケア、児童施設と養子縁組サービス、里親、法的援助、短期ケア、他の不特定サービス）である。
- 6) 米国では、生活困窮の原因である個人が問題を解決することへの主体的、人格的な側面に援助することが特徴であり、日本では、生活困窮者はモノとケアの不足と捉えられており、そのため、その生活困窮の解決は、モノとケアの給付を提供することであると捉えられているところに特徴があるだろう。

(引用文献)

Baker, L.R. (2003) The social work dictionary (5th ed.) Washington, DC: NASW, Press.

- Compton, Beulau R. (1980) "Introduction to Social Welfare & Social Work;Function & Process," Dorsey Press.
- 船曳宏保 (1993) 『社会福祉学の構想』 新評論.
- Friedlander, Walter A. (1955) "Introduction to Social Welfare," NY. Prentice-Hall.
- Gilbert, Neil & Specht, Harry (1981) "Handbook of the Social Services" , Prentice Hall, Inc.,N.J. (USA) .
- Gilbert, Neil & Specht, Harry & Paul Terrell (1993) Dimensions of Social welfare policy,3th Ed.Prentice-Hall,Inc.
- Hoefler, Richard. (2008) .Social Welfare Expenditures, Encyclopedia of Social Work (20th.,pp.101-107) Washington,DC:NASW Press.
- 一番ヶ瀬康子 (1963) 『アメリカ社会福祉発達史』 光生館.
- Kahn, Alfred J. (1973) "Social Policy and Social Services" New york; Random House.
- Kahn, Alfred J.& Kamerman, Sheila B. (1980) "Social Services in International Perspective" ;The Emergence of the Sixth System , Transaction Books.
- Kahn, Alfred J.& Kamerman, Sheila B. (1976) "Social Services in the United States" Philadelphia;TEMPLE UNIVERSITY PRESS.
- Kramer, R.M. (1987) Voluntary agencies and the personal social services.In W.W.Powell (Ed.) ,The research handbook.New Haven,CT:Yale University Press.
- Macarov, David (1995) Social Welfare,structure and Practice,Sage Publications,Inc.
- Morris, Robert (1979) "Social Policy of The American Welfare State" New York;HAPPER & ROW.
- People, Philip R. (2008) Social Service, Encyclopedia of Social Work (20th.,PP.98-101) Washington,DC:NASW Press.
- Poople, Philip R.&Leighingeer, Leslie (2005) Social Work,Social Welfare,and American society,6th ed.Pearson Education,Inc.
- Reid, P.Nelson (1995) NASW,Encyclopedia of Social Work, vol.19. pp.2206-2225.
- 新藤宗幸・武智秀之 (1989) 「第3章 連邦制・地方自治・立法過程」『アメリカの社会保障』(東京大学出版会). pp.47-69.
- "Social Security Bulletin," (1950) prep.by Social Security Administration,Washington D.C.,U.S.Gov.of Printing,vol.12.
- 高田真治 (1986) 『アメリカ社会福祉論』 海声社.
- Zastrow,Charles. (2000) Introduction to social work and social welfare,Wadsworth Publishing Company, 7th ed.